

TAC 電験三種講座

石田先生からのメッセージ

23.09.29



過去問との向き合い方

前回の本試験令和5年度上期では、問題のほとんどが過去問からの流用となっており、今後の傾向は不明ながらも、以前より過去問の重要度は上がっています。

過去問を解くと、本試験で出題される問題を事前に確認できるので、合法カンニングみたいな感じになっています。

なので、過去問に関しては『解けば解くほどお得』です。

現在の過去問からの流用が非常に多い試験内容であれば、できるだけ多くの問題に触れた方がお得なので、解説を読んでもよくわからない問題はひとまず付箋を立てるなりして後回しにしまい、次々問題を解くのが良いと思います。

特に電験の場合は6割(60点)合格なので、奇問難問ビックリ問題にこだわってもあまり得点につながりません。

サクサク問題を解いていき、よく使う公式を覚えたり、よくする式変形の流れに慣れたり、手を動かす練習をしていきましょう。

インプットと並行して問題を解いている時期、ようするに問題に慣れるまでの間は、ミニテストや問題集のように範囲ごとにまとめられたもので練習してバッチリなのですが、

試験直前期のような本試験を意識して演習を行う場合、10年過去問題集のように本試験と同じ形式でまとめられたものを使うのがオススメです。

本試験と同じ形式でなければ『時間配分』や『問題の取舍選択』の感覚を培うのは難しいので、問題を解くのに慣れてきたら、10年過去問題集にチャレンジしましょう。

TAC 電験三種講座

石田先生からのメッセージ

23.09.29



過去問との向き合い方

ここまで過去問はやった方がよいという話をしてきましたが、過去問をほとんどやらずに合格した人も知っていますし、私自身も受験した当時はあまり過去問は解きませんでした。

『過去問を解く』という行為は、やればやるほどお得であることに違いはないと思いますが、合格のために絶対に必要な過程ではないと思っています。

例えば「○年分を△周解く」や「全問解けるまで繰り返し解く」のような目標は、しんどくなってしまうので、あまりオススメではありません。

『合格』という『目標』のために、『過去問を解く』という『手段』があるだけで、

『過去問を沢山解く』を『目標』にしてしまうと、内容が頭に入ってこず、本末転倒という結果になりかねません。

合格という目標のために、何をすべきか。

実力をつけるために、過去問を解いたら解きっぱなしではなく、きちんと教科書と照らし合わせ、間違えたところの復習をする、復習ができたならもう一度解いてみるなど、ただ解く以外の部分でも差がつくので、それぞれに合った使い方で、過去問にチャレンジしてみましょう。